わが国における海釣り施設の事業継続要件に関する研究 ―海釣り施設の整備状況と運用形態に着目して―

常松　美咲[1]・岡田　智秀[2]・田島　洋輔[3]

[1]学生会員　日本大学　理工学部まちづくり工学科（〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14）
E-mail: csmi20074@g.nihon-u.ac.jp
[2]正会員　日本大学教授　理工学部まちづくり工学科（〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14）
E-mail: okada.tomohide@nihon-u.ac.jp (Corresponding Author)
[3]正会員　日本大学助教　理工学部まちづくり工学科（〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14）
E-mail: tajima.yousuke@nihon-u.ac.jp

わが国では，2023 年 3 月に“みなと”の魅力向上に向けた公共空間の有効活用を図る取り組みとして「命を振るうみなとの地域振興プロジェクト」の公表を受けて，行政財産となる既存防波堤や港湾緑地などを多目的に使用する海釣り施設に注目が集まっている．この施設は，地域固有の体験型観光の地域資源として，地方創生における地域振興の核となり得る施設であることから，今後，導入を促進していくべき施設であると考えるが，長期間にわたり継続運営している海釣り施設の整備実態や運用形態は明らかにされていない．そこで本研究では，20年以上継続運営している海釣り施設（20施設）を対象に，整備実態や運用形態を明らかにした結果，6 つの釣り場タイプと 5 つの運用形態タイプに分類するとともに，それらタイプ別の特徴を明らかにした．

Key Words: *Sea Fishing Facilities，regional development，port town planning，Development Status，Operation form*

1.　研究の背景と目的

わが国では，2023年3月に“みなと”の魅力向上に向けた公共空間の有効活用を図る取り組みとして「命を振るうみなとの地域振興プロジェクト [1)]」の公表を受けて，行政財産となる既存防波堤や港湾緑地などを多目的に使用する「海釣り施設」に注目が集まっている．この「海釣り施設」は，地域固有の体験型観光の地域資源として，地方創生における地域振興の核となり得る施設として期待されることから，その普及・啓発にあたっては，継続運営されている各事例に係るその事業要件を体系的に整理し，広く情報提供することが重要になると考える．

こうした観点のもと，海釣り施設に関する既往研究をみると，秋元ら [2)]による港湾施設の空間構造と釣り利用者の行動特性からみた港湾設計の留意点について論考した研究や，高荷 [3)]による東京臨海部のマリーナや海釣り施設を対象に，施設ごとの経済分析を行うことで公共性と事業性の観点から問題点を捉えた研究，鈴木 [4)]による観光地に位置する海釣り公園を対象に，釣り人へのアンケートや関係者への聞き取り調査によって利用者と事業者の双方から事業運営体制の問題点について考究した研究が見られる．しかし，地域固有の体験型観光資源となり得る海釣り施設の導入促進を目指すためには，行政や事業者が試行錯誤を重ねながら長期間にわたり継続運営を行ってきた「海釣り施設」に着目し，それら施設の整備実態や運用形態などを体系的に整理するとともに，継続運営に係る事業要件を明らかにすることが重要となると考えるが，こうした観点から「海釣り施設」の整備実態を明らかにした研究は蓄積に乏しい．

そこで本研究では，わが国における「海釣り施設」の継続運営に係る事業要件を導出するため，施設開業から 20 年以上にわたり継続運営している「海釣り施設」を対象に，海釣り施設の施設概要や釣り場の形態などの「整備実態」や設置主体と運営主体との関係にみる「運用形態」について明らかにすることを目的とする．

なお，本研究では，地方創生における地域振興の核とすべきとの観点から，「海釣り施設」を「既存防波堤や港湾緑地，磯場等を多目的に使用した海釣り専用の施設」と定義し，主に利用者が釣りを楽しむ空間となる「釣り場」と管理・運営機能を有する「管理施設」に加え，園

路や簡易的な休憩施設などを有する「園路および公園・緑地」で構成されるものとした.

2. 研究方法

本研究では，海釣り施設の整備実態や運用形態を明らかにするため，**表-1** に示す調査を行った． 以下に，その具体的な方法を述べる.

(1) 調査対象施設の設定

本稿では，20 年以上継続運営してきた海釣り施設の整備実態や運用形態を体系的に整理するため，2000 年 1 月に日本海事広報協会[1]が発行した「海のレジャー&スポーツ施設総ガイド：データブック 2000」[5]に掲載された海釣り施設（全 42 施設）のうち，20 年以上にわたり継続運営されてきた海釣り施設（25 施設）を抽出した. さらに，各施設へ研究趣旨や調査概要を説明したうえで，調査協力を依頼した結果，協力の得られた「海釣り施設（全 20 施設）」を調査対象施設に設定した（**表-2**）.

表-1 調査概要［筆者作成］

(1)調査対象施設の設定	
調査期間	2023 年 4 月 20 日～2023 年 5 月 20 日（約 1 ヶ月間）
調査対象	・日本海事広報協会が発行する「海のレジャー&スポーツ施設総ガイド：データブック 2000」[5] ・各海釣り施設公式 HP[6)~11)]
調査内容	1)文献 [5]に掲載される海釣り施設（全 42 施設）のうち，開業年をもとに 20 年以上にわたり継続運営されている海釣り施設（25 施設）を抽出. 2)電話にて研究趣旨や調査概要を説明したうえで，調査への協力依頼を行った結果，協力の得られた海釣り施設（全 20 施設・**表-2**）を調査対象施設へ設定.
(2)海釣り施設の整備実態や運用形態の把握	
アンケート調査	
期間	2023 年 8 月 23 日～2023 年 9 月 8 日（17 日間）
調査対象	海釣り施設の運営者全 20 施設（**表-2**）
調査項目	1)名称・所在地・収容人数・施設開園日・年間開園日数・利用時間・運営期間・つり台利用料・施設入場料など 2)現在の設置・運営主体 3)事業者・運営者の変遷 4)釣り場形態 5)施設の利用状況 6)施設内で行っている広報活動 7)イベントの実施内容 8)天候による影響の対策 9)安全対策 10)過去の閉鎖した経験について 11)地域との関係性 12)施設の改良・改善について 13)海釣り施設の事業費 14)年間の収益と支出 15)行政や協会等からの補助金や助成金の有無 16)釣魚の購入について
分析方法	1)海釣り施設の整備実態を把握するため，釣り場の構造形式を「桟橋」「護岸」「防波堤」「海上釣堀」「磯場」「メガフロート」の 6 つに分類（**表-3**）. 2)運用形態を把握するため，釣り場タイプ別に「設置・運営主体」「施設利用料」を整理（**表-4**）.

(2) 海釣り施設の整備実態や運用形態の把握

本研究では，20 年以上にわたり継続運営されてきた海釣り施設の整備実態や運用形態の特徴を把握するため，前項の調査協力の得られた全 20 施設を対象に，**表-1(2)** に示すアンケート調査を実施した. 調査に際しては，各海釣り施設の施設概要や整備実態，運用形態の各種特徴を明らかにするため，**表-1(2)**に示す 16 の調査項目を設定し，調査対象施設の釣り場形態や施設利用状況，天候等による安全管理に対する取組基準等を捉えた.

そこで以降は，海釣り施設の整備実態や運用形態を体系的に捉えるため，これらアンケート結果をもとに，海釣り施設全 20 施設の「釣り場の構造形式のタイプ分類」とともに，「設置・運営主体」およびその結果と釣り場タイプとの関係性について明らかにする.

3. 結果および考察

(1) 釣り場タイプとその特徴

表-3 は，釣り場タイプごとの形態的特徴や各タイプの該当件数や水深，海底状況，代表施設等を示したものである. 以降は，これらをもとに各釣り場タイプの特徴などについて詳述する.

1) 桟橋タイプ

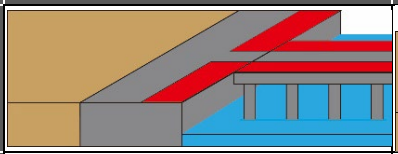
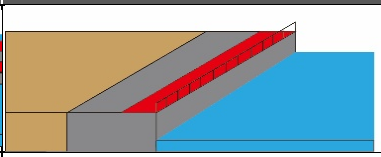
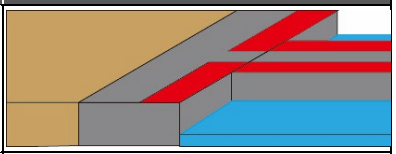
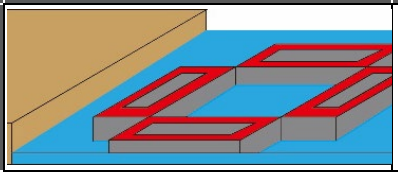
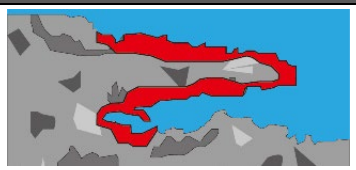
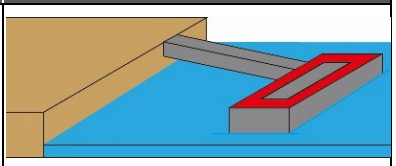
表-3 より，当タイプは，陸域から海側に突出した桟橋と周辺護岸を活用する釣り場タイプであり，全 20 施設中 12 施設（60%）と最も多くの釣り場が該当する. その特徴は，「オリジナルメーカー海釣り公園（千葉県市原

表-2 調査対象施設［筆者作成］

No	施設名	都道府県	運営状況
1	青森市浅虫海づり公園	青森県	1986～現在
2	鶴岡市遊漁センター由良海洋釣堀	山形県	1978～現在
3	鹿島港魚釣園	茨城県	1993～現在
4	オリジナルメーカー海づり公園	千葉県	1990～現在
5	若洲海浜公園&江東区立若洲公園	東京都	1990～現在
6	海辺つり公園	神奈川県	1992～現在
7	本牧海釣り施設	神奈川県	1978～現在
8	磯子海づり施設	神奈川県	1983～現在
9	石田フィッシャリーナ	富山県	1997～現在
10	のとじま臨海公園海づりセンター	石川県	1983～現在
11	宇出津港釣桟橋	石川県	不明[注1)]
12	南港魚つり園護岸	大阪府	不明[注1)]
13	南あわじ市丸山海釣り公園	兵庫県	不明[注1)]
14	南あわじ市浮体式多目的公園	兵庫県	不明[注1)]
15	尼崎市立魚つり公園	兵庫県	1982～現在
16	下関フィッシングパーク	山口県	1985～現在
17	フィッシングパーク光	山口県	1980～現在
18	福岡市海づり公園	福岡県	1985～現在
19	湯の児フィッシングパーク	熊本県	1984～現在
20	鴨池海づり公園	鹿児島県	1986～現在
計	20 施設		

注 1）開園年が不明な施設は，2000 年に発行された文献 [5]に掲載されている施設であり，現在も運営していることから 20 年以上にわたり継続運営されてきた施設と扱うものとした.

表-3 釣り場タイプとそれらの特徴［参考文献[6)~11)]をもとに筆者作成］

釣り場タイプ		① 桟橋タイプ	② 護岸タイプ	③ 防波堤タイプ
釣り場形態				
概要		陸域から海側に突出した桟橋と周辺護岸を活用する釣り場タイプ．釣り場整備を目的に整備された「桟橋」がほとんどであるため，桟橋入口付近に入場管理用の扉が設置．	海岸保全や親水空間の創出を目的に整備された「護岸」をそのまま釣り場として活用した釣り場タイプ．公園や港湾緑地と一体的に整備されているため，ほとんどの釣り場に転落防止柵が設置されている．	港湾の静穏性を確保するために海に設置された「防波堤」をそのまま釣り場として活用した釣り場タイプ．ほとんどの釣り場で転落防止柵が設けられており，閉鎖基準や安全対策が明確に定められている．
釣り場数		12 施設（60%）	4 施設（20%）注2)	3 施設（15%）注2)
水深		約 4～20m	約 4～7m	約 8~9m
海底状況		砂地・磯・漁礁・藻場（天然） その他（ドロ）	砂地・磯・漁礁 その他（石積み/ゴロタ石）	砂地・磯・その他（石積み）
隣接施設		管理棟・売店　など	公園・緑地　など	漁業関係施設　など
安全対策		転落防止柵や手すりの設置	転落防止柵や手すりの設置	転落防止柵やうきわの設置
代表施設	名称	オリジナルメーカー海釣り公園	海辺つり公園	鹿島港魚釣園
	住所	千葉県市原市五井南海岸 1-12	神奈川県横須賀市平成町 3-1	茨城県鹿嶋市新浜地先北防波堤
事例写真				
釣り場タイプ		④ 海上釣堀タイプ	⑤ 磯場タイプ	⑥ メガフロートタイプ
釣り場形態				
概要		海上に釣り専用の生け簀を整備した釣り場タイプ．天然の海面を構造物で囲み，その内側を釣り場として活用しているため，養殖用の循環ポンプが不要．	自然環境の復元を目的に人工的に整備された「磯場」を活用した釣り場タイプ．自然下での釣り体験が可能であるが，柵や手すりがなく利用者の安全管理が必要となる．	陸域から海側に突出した桟橋と沖に浮かぶメガフロートを活用した釣り場タイプ．浮桟橋で陸域とつながっているため，釣り場までは歩いて行くことができる．
釣り場数		1 施設（5%）	1 施設（5%）注2)	1 施設（5%）
水深		約 2～3m	約 9m	約 5～35m
海底状況		砂地	磯・砂地	磯・砂地・漁礁
隣接施設		管理棟・売店　など	公園・緑地　など	管理棟
安全対策		管理人の配置・うきわ設置	特になし	ライフジャケット着用
代表事例	名称	鶴岡市遊漁センター 由良海洋釣堀	若洲海浜公園 & 江東区立若洲公園	南あわじ市浮体式 多目的公園
	住所	山形県鶴岡市由良二丁目 14-55	東京都江東区若洲 36	兵庫県三原郡南淡路町 阿万伊吹町田尻
事例写真				

［凡例］■：釣り場，■：釣り施設，■：背後地（公園・緑地等を含む）
注 2）調査対象施設には，1 施設に複数タイプの「釣り場」を有する施設を含むため，表中の「釣り場数」の合計は 20 施設にならない．

市）[6]」のような釣り場整備を目的に造成されたものがほとんどであり，桟橋入口付近に入場管理用の扉が設置され，安全管理が施されている．次いで，平均水深をみると約4~20mと他のタイプと比して深さにバラつきがみられた．また，海底状況は，砂地や磯，藻場（天然）に加え，人工漁礁が設置される等，魚が集まりやすい海洋環境整備が展開されている．また，当タイプの全ての施設において護岸・桟橋エリアには，柵や手すりが設置されており，初心者や女性，子供でも安全に釣りを楽しむことができる配慮がなされている実態を捉えた．

2) 護岸タイプ

表-3より，このタイプは海岸保全や親水整備を目的に整備された「護岸」を釣り場として活用するタイプであり，20 施設中 4 施設（20%）が該当する．その特徴は，「海辺つり公園（神奈川県横須賀市）[7]」のような公園や緑地の水際の一部を釣り場として活用するものであり，ほとんどの釣り場にバーベキュー施設や魚介類を提供する飲食店が隣接している．また，桟橋タイプと比較して，当タイプの平均水深は約4～7mと浅いことから，親水空間におけるレクリエーション活動の一部として利用されるものであり，集客性が高い場所に立地する釣り場と考えられる．

3) 防波堤タイプ

表-3より，このタイプは，港湾の静穏性を確保するために海に設置された「防波堤」をそのまま釣り場として活用するタイプであり，20 施設中 3 施設（15%）が該当する．その特徴は，「鹿島港魚釣園（茨城県鹿嶋市）[8]」のように，ほとんどの釣り場で転落防止柵が設置されるとともに，閉鎖基準や安全対策が明確に定められている．また，既存防波堤を活用しているため，老朽化の進行が懸念され，継続するためにはメンテナンス費用がかかりやすい釣り場と考えられる．

4) 海上釣堀タイプ

表-3 より， このタイプは，魚類を管理するために，天然海水が出入するよう海上に生け簀を設置し，その内側を釣り場として活用するタイプであり，20施設中1施設（5%）が該当する．このタイプは，「鶴岡市遊漁センター由良海洋釣堀（山形県鶴岡市）[9]」が該当し，天然の海面を生け簀で囲み，その内側を釣り場として活用しているため，養殖用の循環ポンプを不要とし，釣魚の維持・管理費を抑えられる特徴をもつ．平均水深は，2～3m と浅い釣堀であるため，高確率で狙った魚が釣れることや料金設定が相対的に高いことから，収益性が見込める観光施設と考えられる．

5) 磯場タイプ

表-3 より，このタイプは，総量 10 トンの石を配置して人工的に自然環境の回復・保全を図るのために造成された釣り場であり，20施設中1施設（5%）が該当する．その特徴として「若洲海浜公園&江東区立若洲公園（東京都江東区）[10]」では，背後地に公園や港湾緑地が整備されており，園内にバーベキュー場やアウトドア施設などが併設されている．陸域からは距離があり，安全柵も設けられていないため，非日常感を楽しむことができる釣り場であるといえる．

6) メガフロートタイプ

表-3より，このタイプは，沖合に浮かぶ浮体構造物である「メガフロート」を釣り場に活用するタイプであり，20 施設中 1 施設（5%）が該当する．その特徴は， 2000 年に住友重機械工業（当時）が主導して建造した「メガフロート」を細分化して釣り場として再利用したものであり，浮桟橋で陸域とつながっているため釣り場まで歩いて行くことができる．また，最大水深が35mと最も深く全国的に希少な釣り場タイプであるため，来訪者の割合は観光客が約 8 割と地域の観光拠点になっている．

(2)「設置」ー「運営」の主体と釣り場タイプの関係性

前項では，6 つの釣り場タイプの特徴について整理した．しかし，これら釣り場タイプや料金設定については設置・運営主体等によって大きく異なると考えられることから，本項では設置ー運営主体と料金設定との関係性について分析する．そこで，20 年以上にわたり継続運営を行う海釣り施設の運営形態を捉えるため，釣り場の設置ー運営主体と釣り場タイプの関係性や利用料金を示したものが**表-4** である．以降は，これをもとに海釣り施設の運営形態について考察する．

1) 公ー公型

この型は，海釣り施設の管理と運営の双方を行政団体（都道府県・市町村）が実施するタイプであり，20 施設中 1 施設（5%）と最も少ない（**表-4**）．この釣り場は，「宇出津港釣桟橋（石川県）」であり，「護岸タイプ」に該当する．当該施設は，公共岸壁をそのまま釣り場として利用者に提供するものであるため，最低限の維持管理のみで運営が可能となることから施設利用料が無料であり，釣り竿レンタルなどのサービスや釣りやすい施設整備，イベントの開催などは見られない．

2) 公ー民型

この型は，海釣り施設の管理を行政団体（都道府県・市町村）が，運営を民間がそれぞれ実施するタイプであり，20 施設中 3 施設（15%）が該当する（**表-4**）．このうち，最も多い釣り場タイプは，「防波堤タイプ」が 2 施設（66.7%），次いで「護岸タイプ」が 1 施設（33.4%）となる．施設利用料は，指定管理者や自治体が運営する釣り場と比較すると料金が低いことから，前述した「公ー公型」と同様に公共岸壁や防波堤をそのまま釣り場として利用者に提供するものであると推察されるが，「鹿島港魚釣園（茨城県鹿嶋市）」のように釣り大会や釣り

竿レンタルなどのサービスを行っているため施設利用料が有料(約 200 円)となっている．

3) 公ー指定管理型

この型は，海釣り施設の管理を行政団体（都道府県・市町村）が，運営を指定管理者がそれぞれ実施する最も多いタイプであり，20施設中15施設（75%）が該当する（**表-4**）．このうち，最も多い釣り場タイプは，「桟橋タイプ」が 10 施設（66.7%），次いで「護岸タイプ」が 2施設（13.3%），「磯場タイプ」と「メガフロートタイプ」が 1 施設ずつであり，「桟橋タイプ」が全体の約 7 割を占めている．施設利用料（平均値）は，約 644.7 円と公共や民間運営と比較して高いことが分かる．その理由として，指定管理者が運営する際には，集客の工夫の一つであるイベント（釣り教室や釣り大会等）を多く実施しているためと考えられる．

4) 公ーその他型

この型は，海釣り施設の管理を（都道府県・市町村），運営をその他運営者が実施するタイプであり，20 施設中 2 施設（10%）が該当する（**表-4**）．釣り場タイプは，「桟橋タイプ」と「海上釣堀タイプ」が各 1 施設であり，そのうち，「桟橋タイプ」である「のとじま臨海公園海釣りセンター」は，のとじま水族館内に併設される海釣り施設である．**表-4** より，施設利用料（平均値）をみると，約 860 円と行政団体が設置した海釣り施設内で最も高い．その理由は，水族館機能と連動した施設管理費に加え，魚の養殖管理や隣接施設の施設管理に費用を必要としているためと考えられる．

5) 3セクー指定管理型

この型は，海釣り施設の管理を第三セクター，運営を指定管理者が実施するタイプであり，20 施設中 1 施設（5%）と最も少ない．この釣り場は，「福岡市海づり公園（福岡県福岡市）」が該当し，「桟橋タイプ」である．桟橋の先には真鯛専用釣堀が設置され，施設利用料は全体と比較すると約 1000 円というように高く設定されている．これは，真鯛の飼育・管理費の他に周辺の飲食店との連携，イベントの実施等が要因であると推察する．

表-4 設置・運営主体別の釣り場タイプの施設数と料金

設置主体	公共				三セク	合計
運営主体	公共	民間	指定管理	その他	指定管理	
桟橋タイプ	0	0	10	1	1	12
護岸タイプ	1	1	2	0	0	4
防波堤タイプ	0	2	1	0	0	3
磯場タイプ	0	0	1	0	0	1
メガフロートタイプ	0	0	1	0	0	1
海上釣堀タイプ	0	0	0	1	0	1
合計	1	3	15	2	1	22
施設利用料（平均値）	無料	200 円	644.7 円	860 円	1000 円	

注2）調査対象施設には，1 施設に複数タイプの「釣り場」を有する施設を含むため，表中の「釣り場数」の合計は 20 施設にならない．

5. まとめ

本研究では，わが国における海釣り施設の継続運営に係る事業要件を捉えるため，20 年以上継続し運営されている「海釣り施設（20 施設）」を対象に，アンケート調査を実施し，6つの釣り場タイプと 5 つの運用形態タイプに分類するとともに，タイプ別の特徴を明らかにした．

その結果，釣り場タイプの主な特徴としては，護岸や防波堤などの既存の港湾施設やそれに付随した桟橋やメガフロートを活用したタイプを中心に，海上釣堀や磯場のように，自然に近接した形式で海釣りを体験できる事例も確認された．

また，これら 20 施設の運用形態は，「公ー指定管理者型」が最も多く，そのほとんどが公共岸壁や防波堤をそのまま利活用する釣り場タイプ（護岸・防波堤タイプ）であった．また， 指定管理者が運営する際には，イベント活動やレンタルサービスなどを実施するため，利用料金は高く設定されるなど，集客性と収益性を見込んだ事業運営が展開されている実態を捉えた．

今後の展開としては，これらの結果をふまえ，事業継続に寄与すると考えられる 20 施設における海釣り施設の立地状況や土地利用規制などの周辺環境や関連法制度との関係性とともに，広報活動状況等について，さらに分析を深めていく所存である．

謝辞：本調査にご協力いただきました青森市浅虫海づり公園，鶴岡市遊漁センター由良海洋釣堀，鹿島港魚釣園，オリジナルメーカー海づり公園（市原市海釣り施設），若洲海浜公園&江東区立若洲公園，海辺つり公園，本牧海釣り施設，磯子海づり施設（横浜フィッシングピアーズ），石田フィッシャリーナ，のとじま臨海公園海づりセンター，宇出津港釣桟橋，南港魚つり園護岸，南あわじ市丸山海釣り公園，南あわじ市浮体式多目的公園（海釣り公園メガフロート），尼崎市立魚つり公園，下関フィッシングパーク，フィッシングパーク光，福岡市海づり公園，湯の児フィッシングパーク，鴨池海づり公園の御関係者に厚く御礼申し上げます．

NOTES

(1) 日本海事広報協会は，全国の各海洋・海事施設（全 1,350 ヵ所）に，施設概要や利用手引き等のアンケート調査を実施し，その中で回答のあった約 1,200 件の海のレジャー・スポーツ施設をデータブックとしてとりまとめている．

REFERENCES

1) 国土交通省：「命を振るうみなとの地域振興プロジェクト」,https://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000391.html（最終閲覧日：2023.7.19）[Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism: "The Project for Regional Development of Life Waving Minato," https://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000391.html,19 July.,2023]
2) 秋元宏孔ほか 4 名：「湾岸施設における釣り人と散歩者の行動および景観体験に関する研究」,海岸工学論文集,40 巻,pp.1136-1140,1993 [Hironori Akimoto and 4 others: "A Study on the Behaviors and Landscape Experiences of Anglers and Walkers in the Bay Facilities", Journal of Coastal Engineering, Vol.40, pp.1136-1140, 1993]
3) 髙荷久昌：「東京臨海部における親水施設の公共性と事業性に関する考察」,海洋開発論文集,第 18 巻,pp.689-694,2002 [Hisamasa Takanori: "A Study on Publicness and Business Potential of Waterfront Facilities in Tokyo Waterfront Area", Ocean Development Review, Vol.18, pp.689-694, 2002]
4) 鈴木一寛：「海釣り公園に関する地域活性の考察」,地域活性学会研究論文集,Vol.4,pp.287-294,2013 [Kazuhiro Suzuki: "Consideration of Regional Vitality Regarding Sea Fishing Parks," Research Papers of the Japan Society for Regional Vitality, Vol. 4, pp. 287-294, 2013]
5) 日本財団図書館 HP：「海のレジャー&スポーツ施設総ガイド：データブック 2000」https://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1999/00717/contents/140.htm（最終閲覧日：2023.10.9）[Nippon Foundation Library HP: "Total Guide to Marine Leisure & Sports Facilities: Data Book 2000" https://nippon.zaidan.info/seikabutsu/1999/00717/contents/140.htm,9 October,2023]
6) 市原市：「オリジナルメーカー海釣り公園 HP」https://livecam.asia/chiba/ichihara/ichihara-umizuri.html [Ichihara City: "Original Maker Sea Fishing Park HP" https://livecam.asia/chiba/ichihara/ichihara-umizuri.html]
7) 横須賀市海辺つり公園：https://www.kanagawaparks.com/umibeturi/facility.html [Yokosuka City Seaside Fishing Park: https://www.kanagawaparks.com/umibeturi/facility.html]
8) 鹿島港魚釣園：https://kashima-fa.com/?page_id=18 [Kashima Port Fishing Park: https://kashima-fa.com/?page_id=18]
9) つるおか観光ナビ：https://www.tsuruokakanko.com/spot/263 [Tsuruoka Sightseeing Navi: https://www.tsuruokakanko.com/spot/263]
10) 若洲海浜公園 &江東区立若洲公園 HP：https://www.tptc.co.jp/park/03_07 [Wakasu Kaihama Park & Koto Ward Tatewakasu Park HP: https://www.tptc.co.jp/park/03_07]
11) 南あわじ市：「海釣り公園メガフロート:」,https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/ soshiki/suisan/umidurikouen-mega.html [Minami Awaji City: "Umidurikouen Mega Float:", https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/ soshiki/suisan/umidurikouen-mega.html]

(Received August 30,2023)
(Accepted ?)